

感染症危機管理研修会
地域での対応事例 風疹

2003.9.18.

岡山市保健所
中瀬克己

katsumi_nakase@city.okayama.okayama.jp

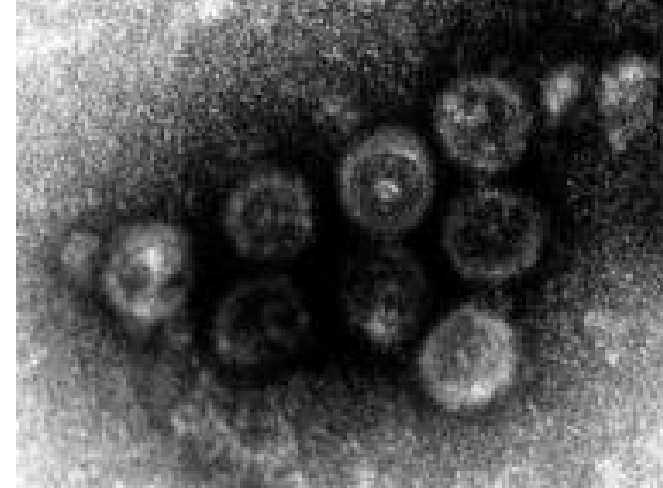
風疹

- 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症で基本的には予後良好な疾患



- 妊娠初期に感染した場合高率に先天性風疹症候群（CRS）がおこり、予防接種による防止が重要
- 10年ごとに大流行（87、92年）があったが減少しつつある
- 全国3000の小児科定点より年間2-3000程度報告
- 0-9歳にほぼ均等に分布し4歳以下で約50%
- ‘99.4-03.2のCRS報告数は3件（岡山1件）

伝搬



- 呼吸器系を介したウイルスの伝播（飛沫感染）
- 潜伏期間は14日（12-23日の範囲）
- 不顕性感染 15%
- ウイルスの排泄期間は発疹出現の前後約1週間とされるが、解熱すると排泄ウイルス量は激減し、急速に感染力は消失する。

対策

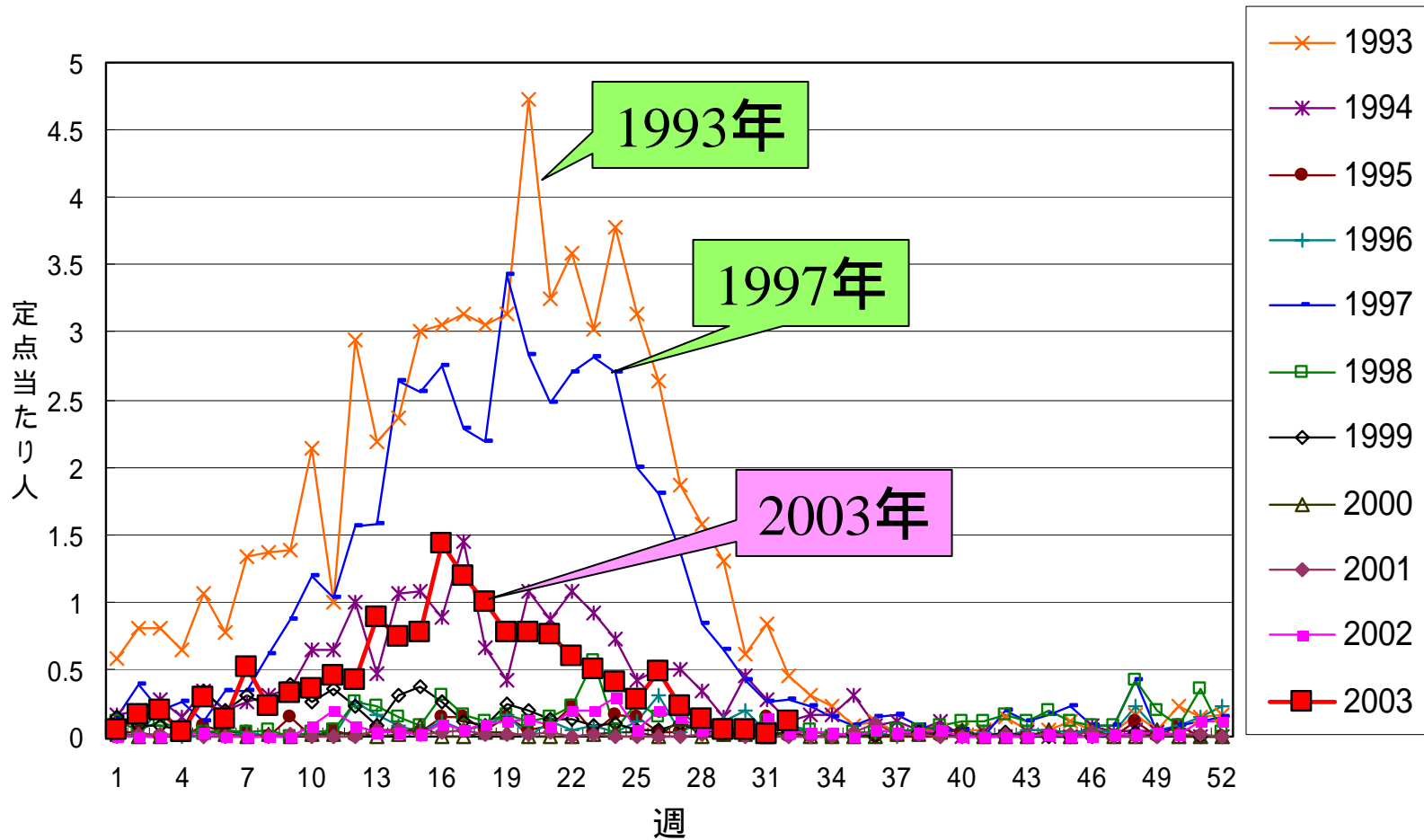
- ワクチンによる妊娠可能性者等への免疫付与
- 感受性者の減少による流行の阻止
- 隔離、消毒は、流行時対策として推奨されていない

インパクトを計る

時・場所・人（の特徴）
による検討

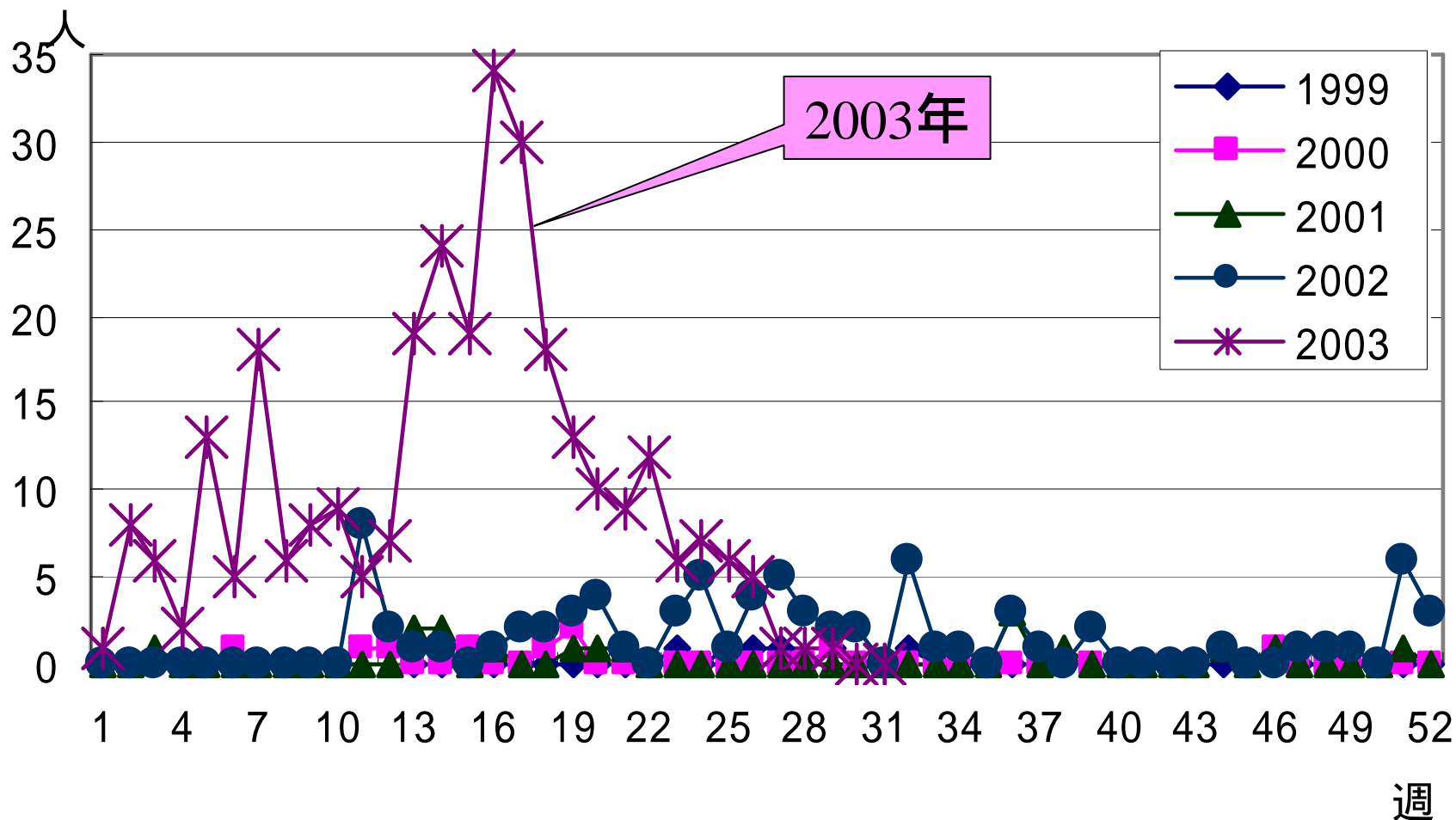
風疹 定点当たり報告数の推移

岡山県 過去10年



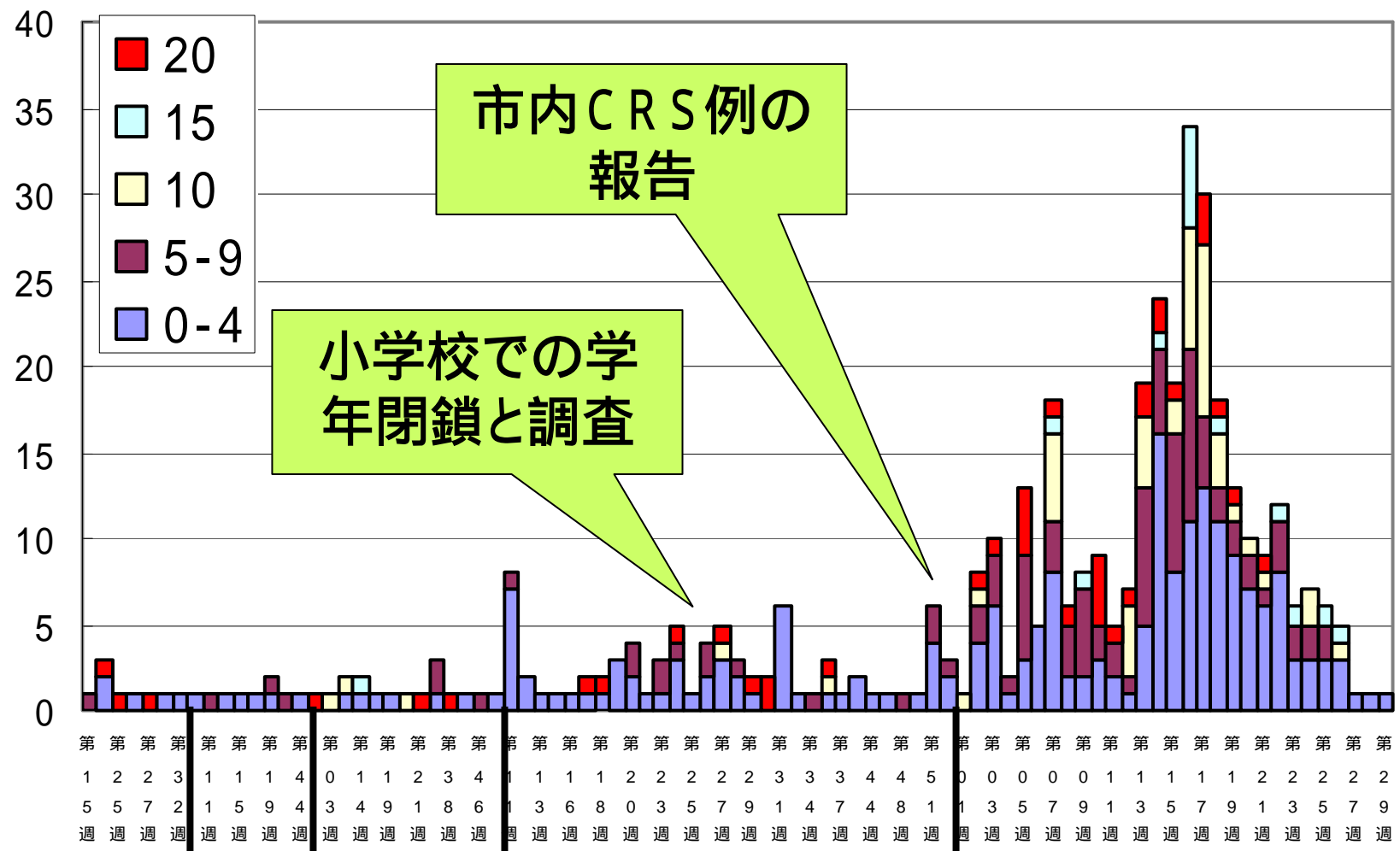
風疹 週当たり報告数推移

岡山市（14小児科定点）1999-2003年



風疹 週当たり報告数 年代内訳

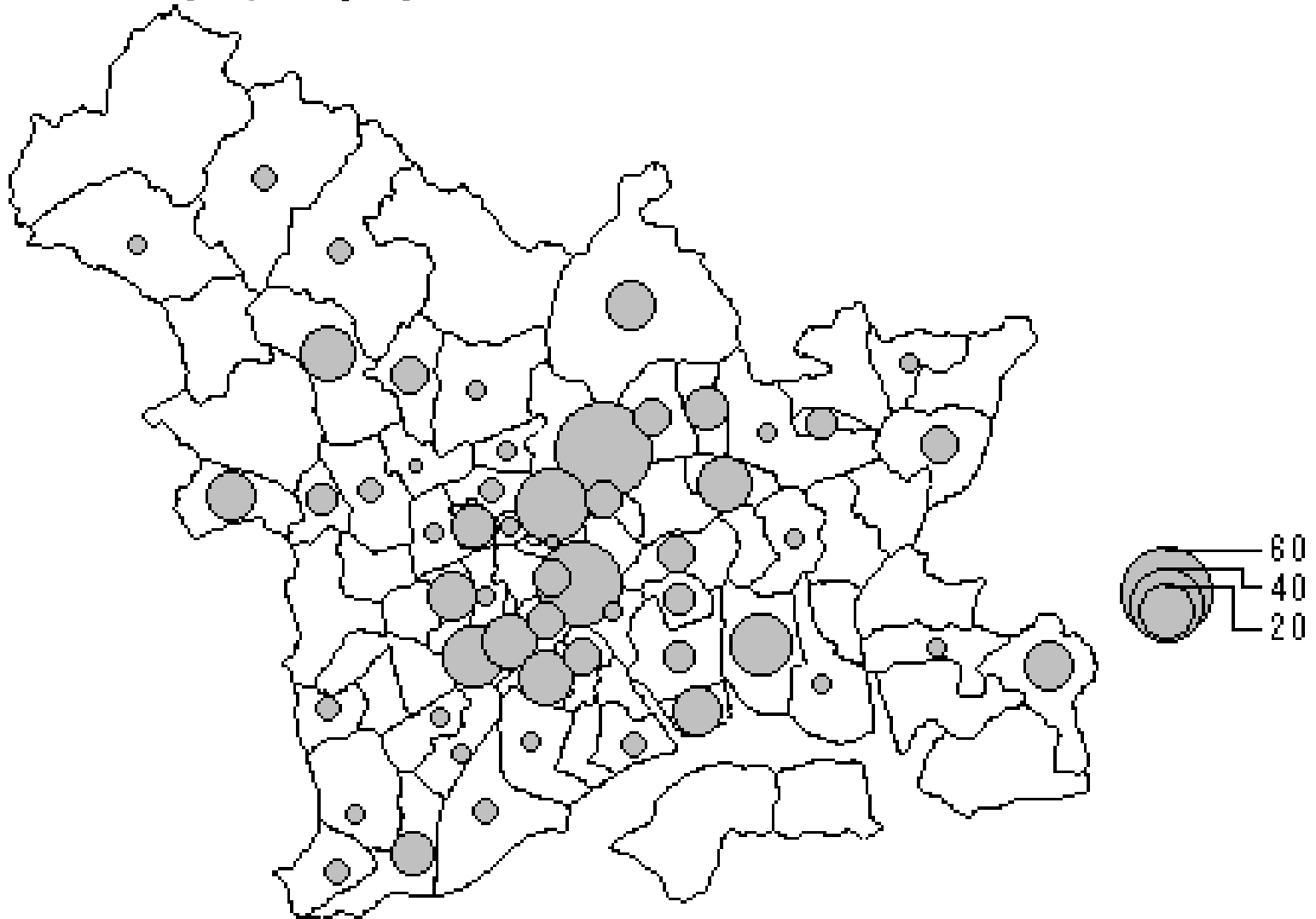
岡山市（14小児科）1999-2003年



1999 2000 2001 2002 2003年

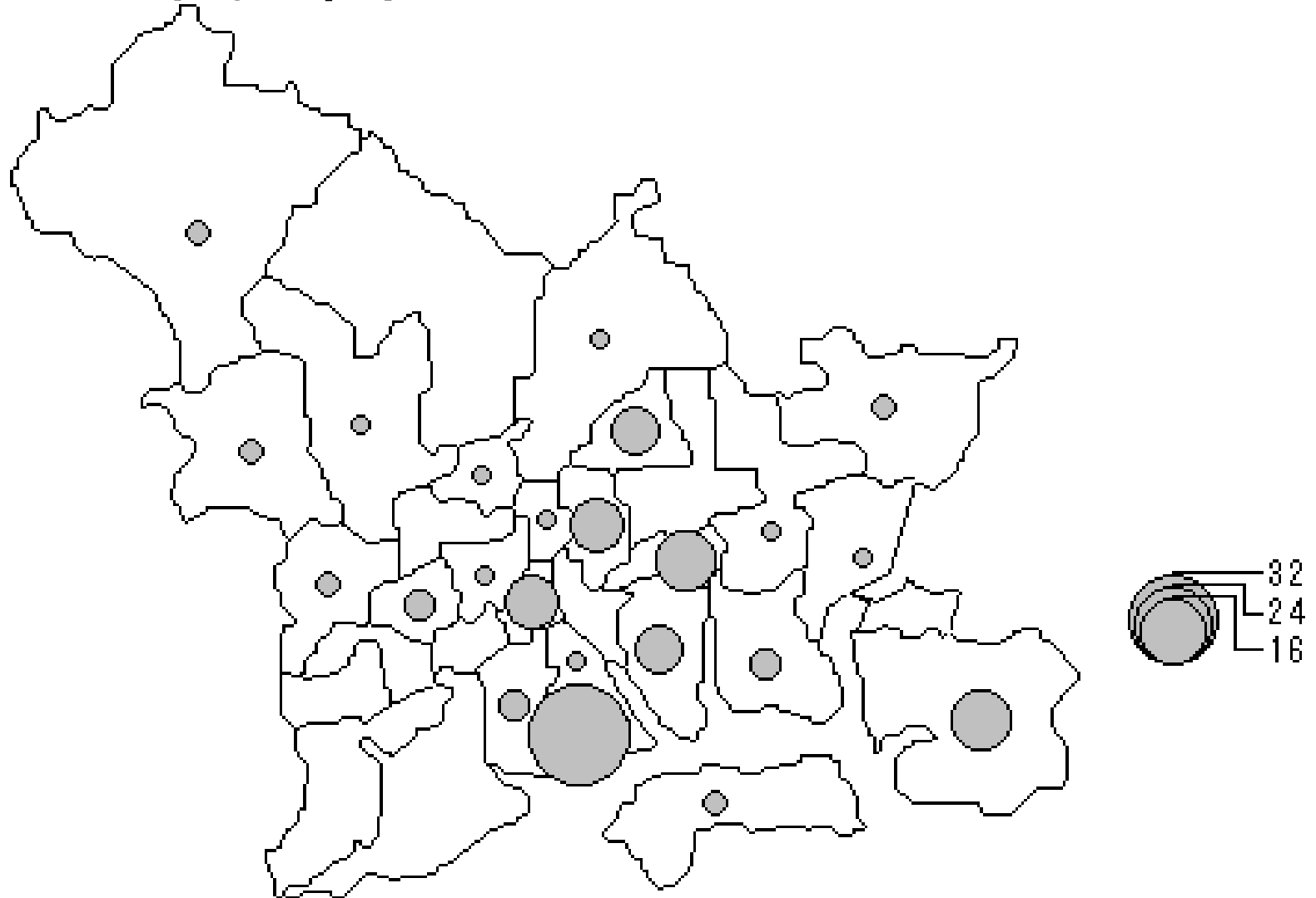


小学生の風疹による出席停止数 岡山市 2003.4 - 7



平成14年4月～平成15年7月の計

中学生の風疹による出席停止数 岡山市 2003.4 - 7

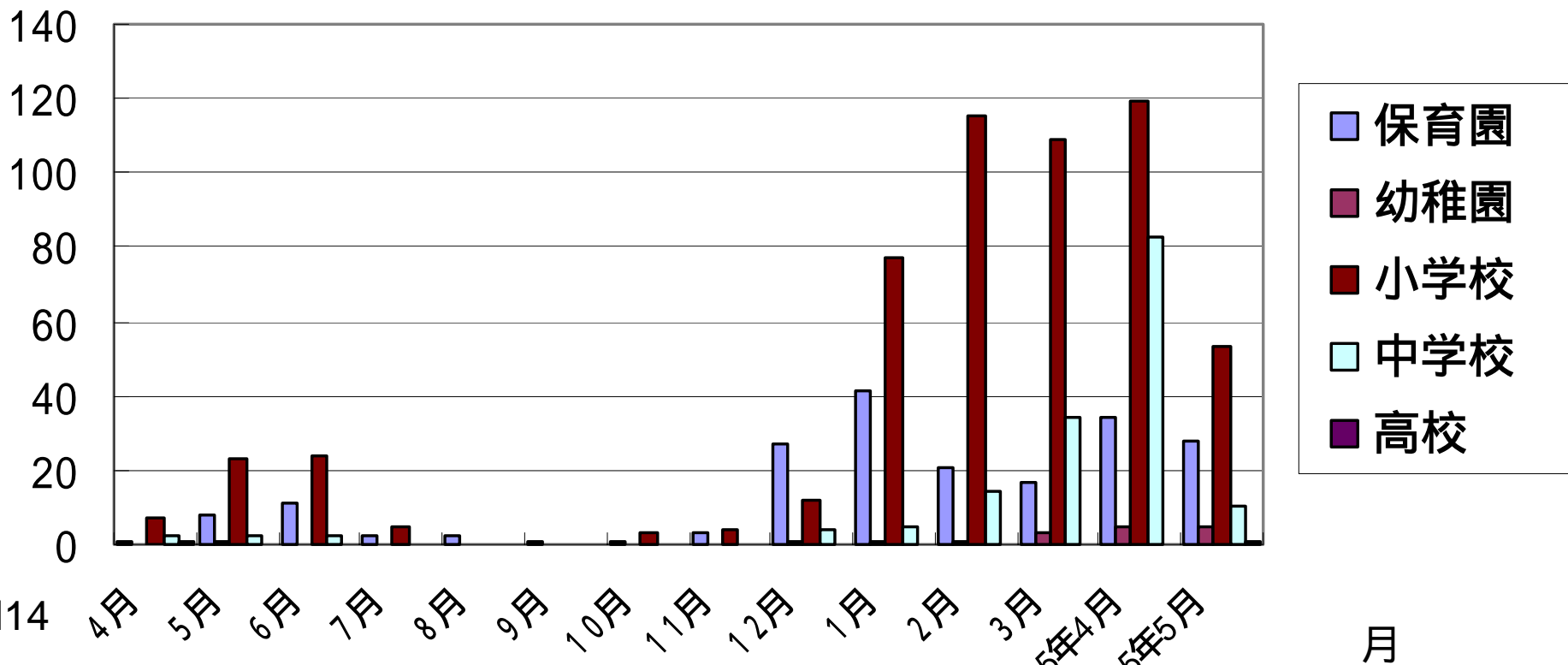


平成14年4月～平成15年7月計

風疹 出席停止者数 学校種別

2002.4-2003.5

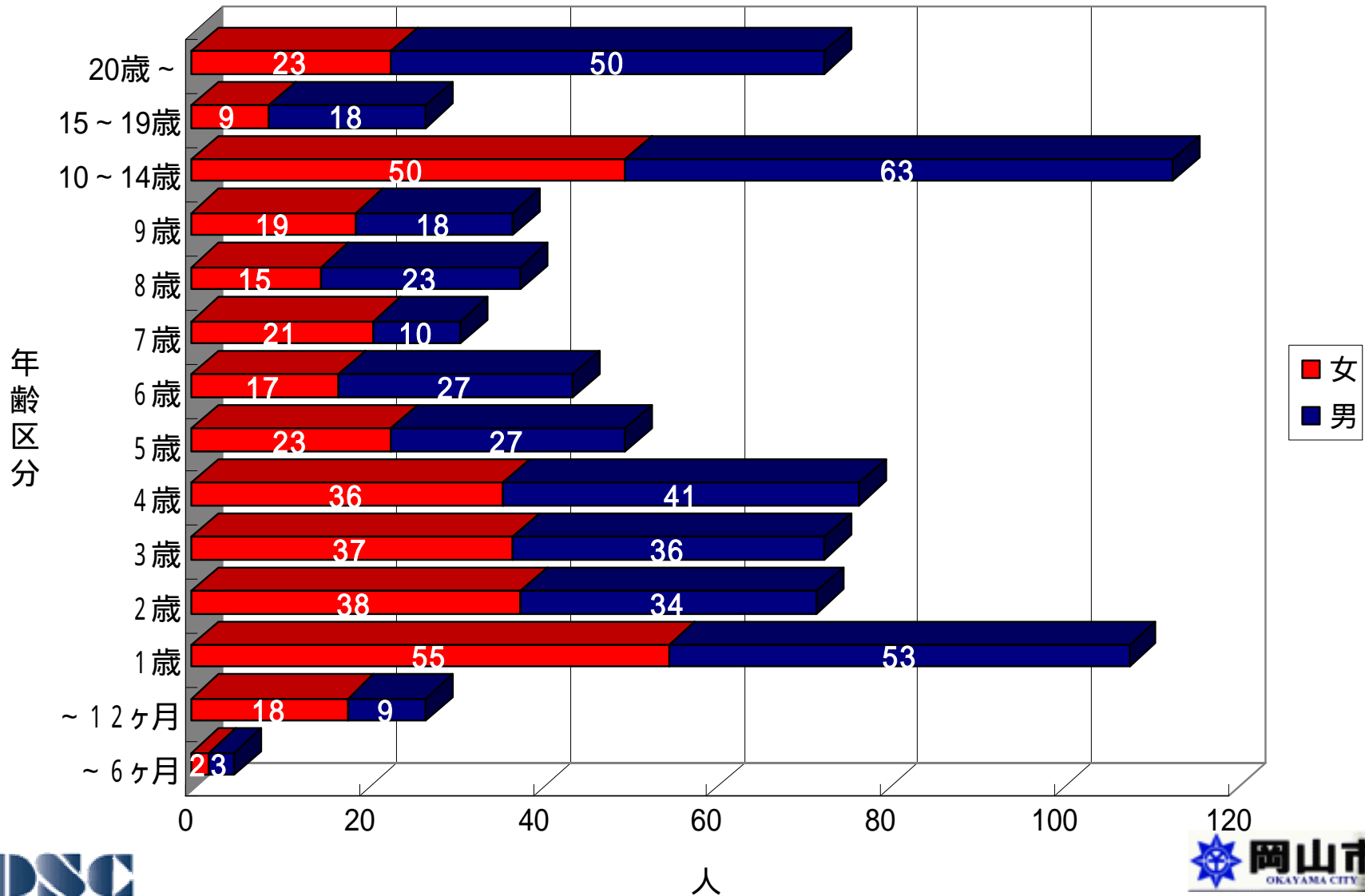
人 1. 高年齢への拡大 2. 保育園での持続



岡山市立保育園・小・中学校、市内高校

風疹 定点報告患者の年齢・性

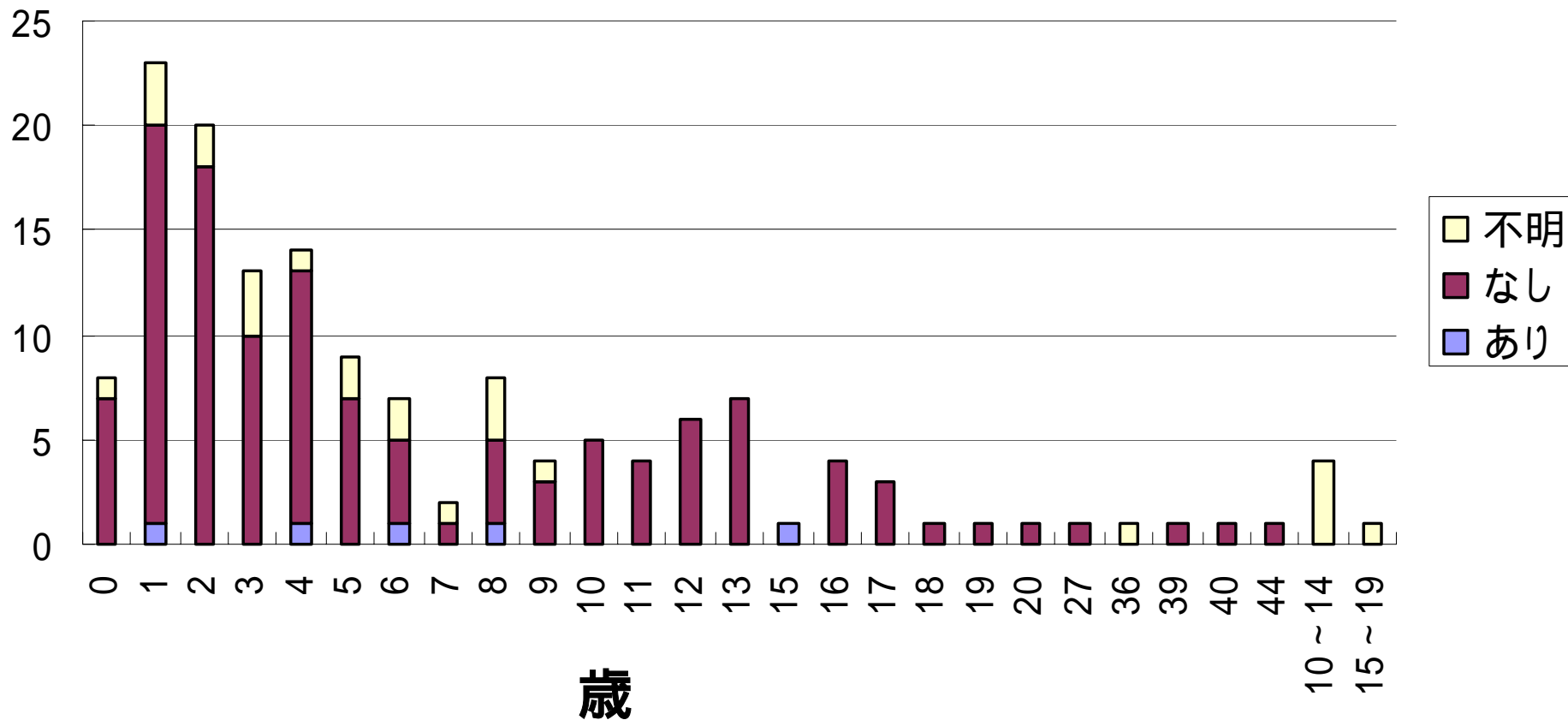
岡山県 2003年33週累積



風疹 予防接種歴定点報告患者調査

岡山市 2003.第16-27週 N=151

人



岡山市 風疹流行の特徴

時

- 2003年当初より岡山県にて増加
- 1993,97年程ではないがこの5年で最多
- 全国的増加は見られない

場所

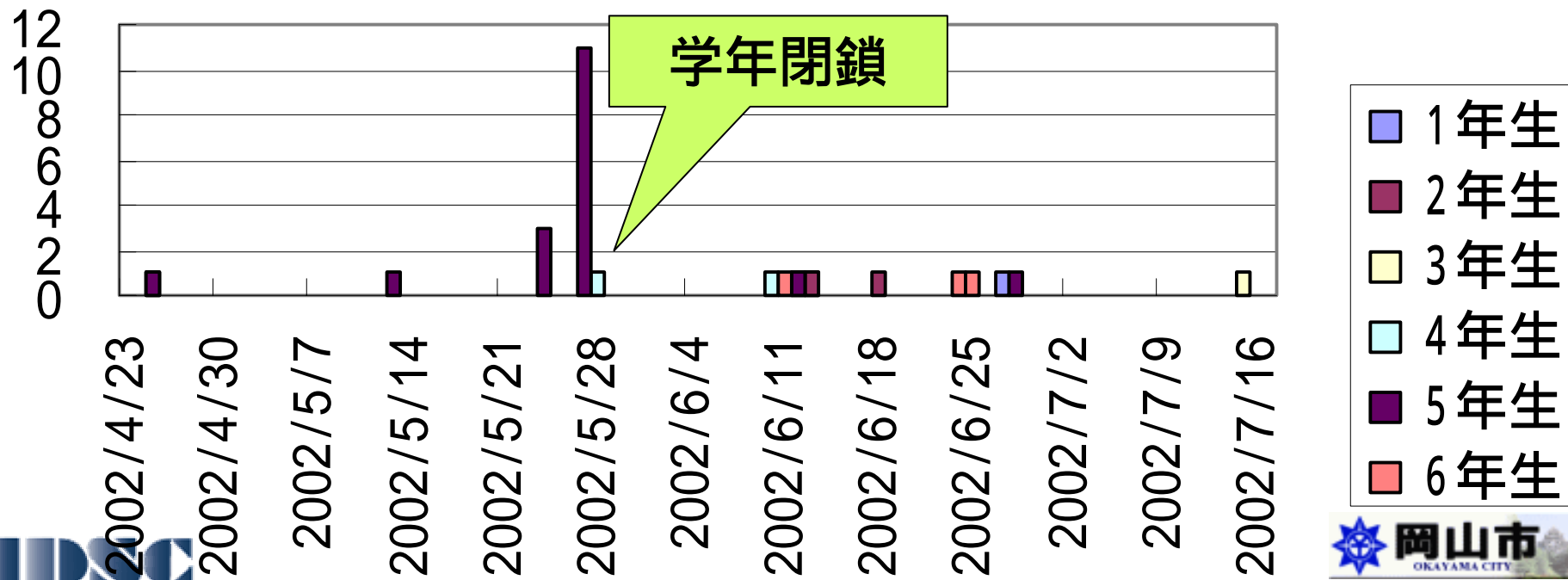
- 市内全域で増加

人の特徴

- 保育園で継続し小・中から高校へと波及
- 罹患者は予防接種歴なしがほとんど

岡山市内 1 小学校における 風疹集団発生 2002.4.-7. N=30

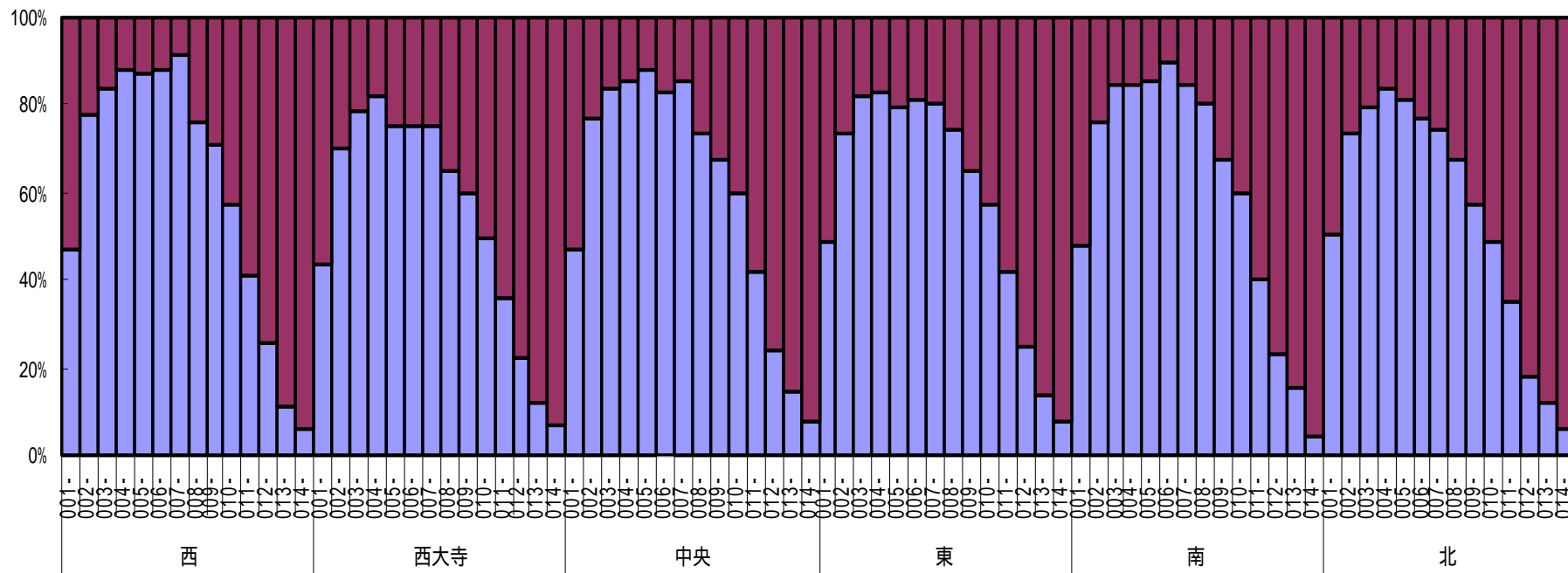
- 5名から nestedPCRにより風疹ウイルス確認
- 全校の18%(30名)が風疹として出席停止
- 罹患者36名中81%ワクチン未接種
- 全校のワクチン接種率42%、流行後罹患者28%



風疹 地域別定期ワクチン接種者

地域差大きくない

岡山市 住民登録者のみ 2003.4.



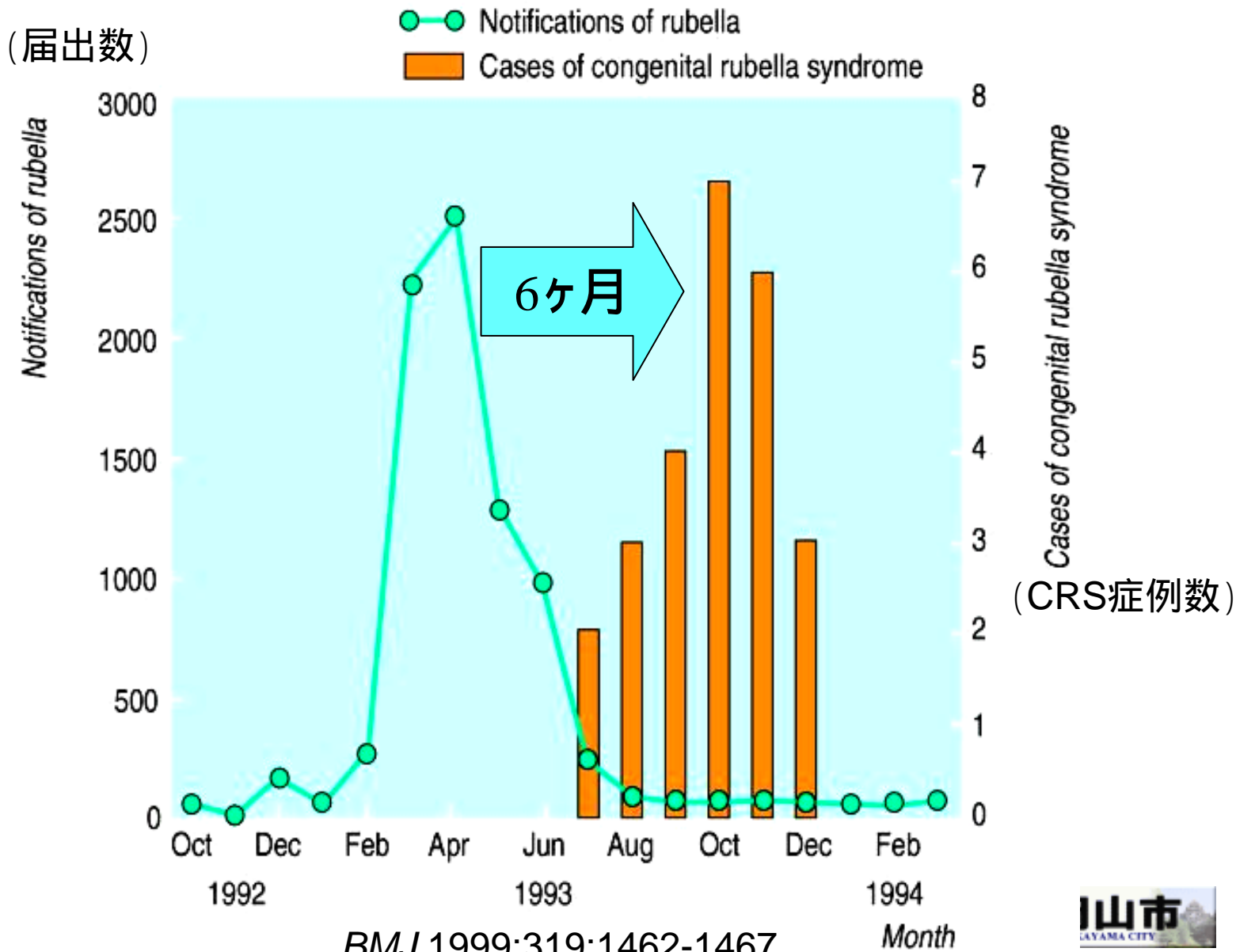
* MMR接種記録が利用できないため年長者の率が低く算出

風疹予防接種状況 岡山市

- 幼児の予防接種率地域差は大きくない
- 接種率の低い集団がある
- 罹患者は未接種者が多い

先天性風疹症候群（CRS）等 の予測

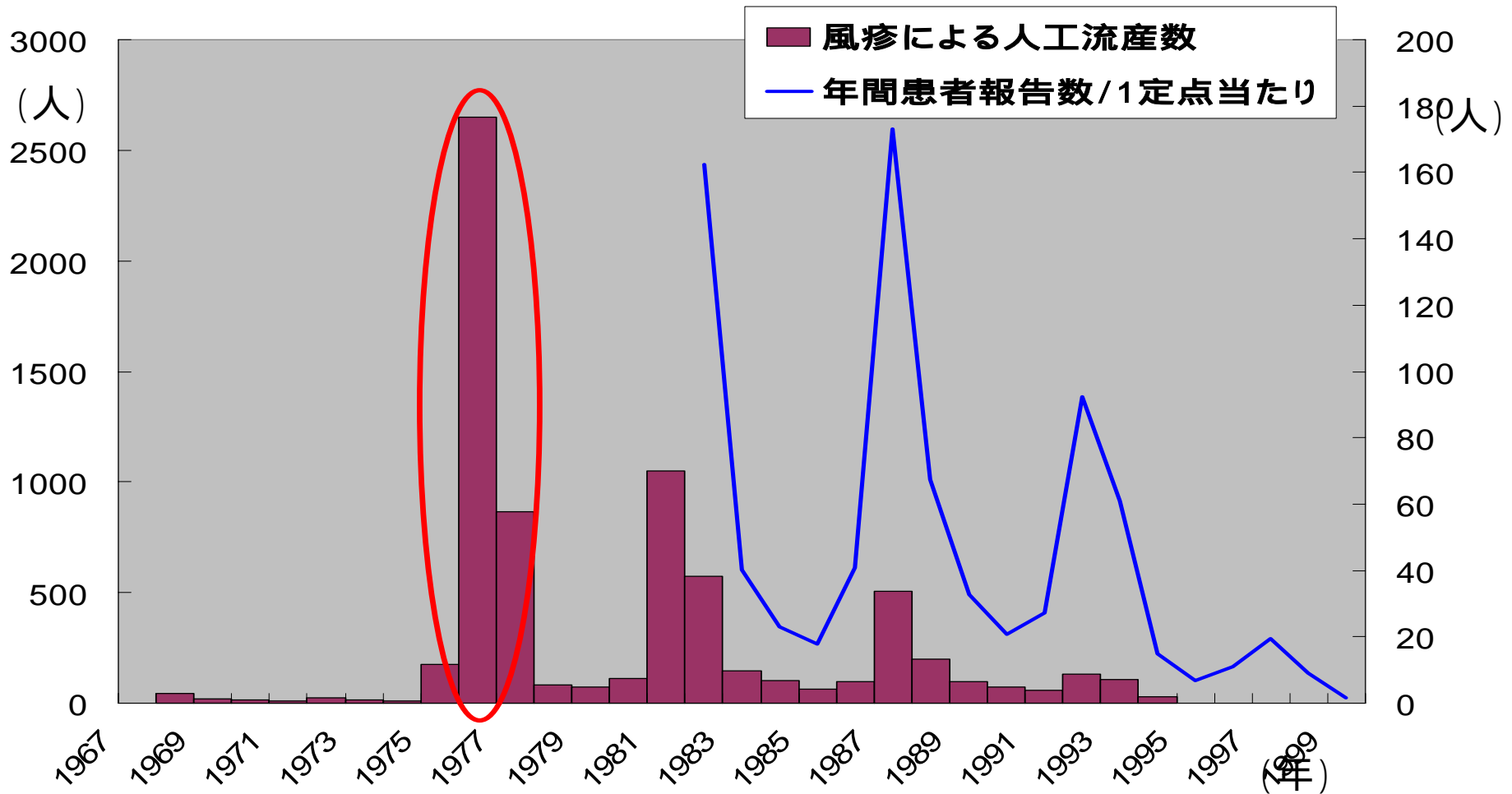
風疹流行時の、月別の風疹患者届出数と 月別の先天風疹の症例数：ギリシャ、1993



先天性風疹症候群CRS等の 岡山市における発生予測

- 市内で6ヶ月流行しこの間3000名の出生があったとの前提で推定
- CRS：0.7人
ギリシアでの流行時10万出生に対し24.6の報告を元に算定
- 聴力障害児：0.3人
日本での1987年聾学校調査で10万出生に9.95の報告を元に算定

日本における風疹関連人工流産数と定点あたり風疹患者報告数の推移



円内の1975-1977年には全国的な風疹大流行があった。

その為に先天性風疹症候群児(CRS)の出産を恐れて多くの人が人工中絶を行った。

1981年以前は、患者数が調べられていないため定点あたり患者報告数不明。

風疹流行期における人工妊娠中絶 に関する予備的調査 岡山2003

- 2003.8月に市内の分娩数の多い6医療機関から聞き取り調査
- 人工妊娠中絶 3件
- 後期等に罹患し経過観察した妊婦が他にも数名あり

企業における風疹集団発生

- 対象：岡山市内 3 7 5 の企業
- 回収：5 3（9月8日締め切り）
- 集団発生あり 2 5 %（13 / 53）
 - 1人 5
 - 2 - 5人 7
 - 6 - 9人 0
 - 10人以上 1（25人）

対策を検討する

図4. 性別年齢群別風疹抗体保有状況, 2001年

(感染症流行予測調査)

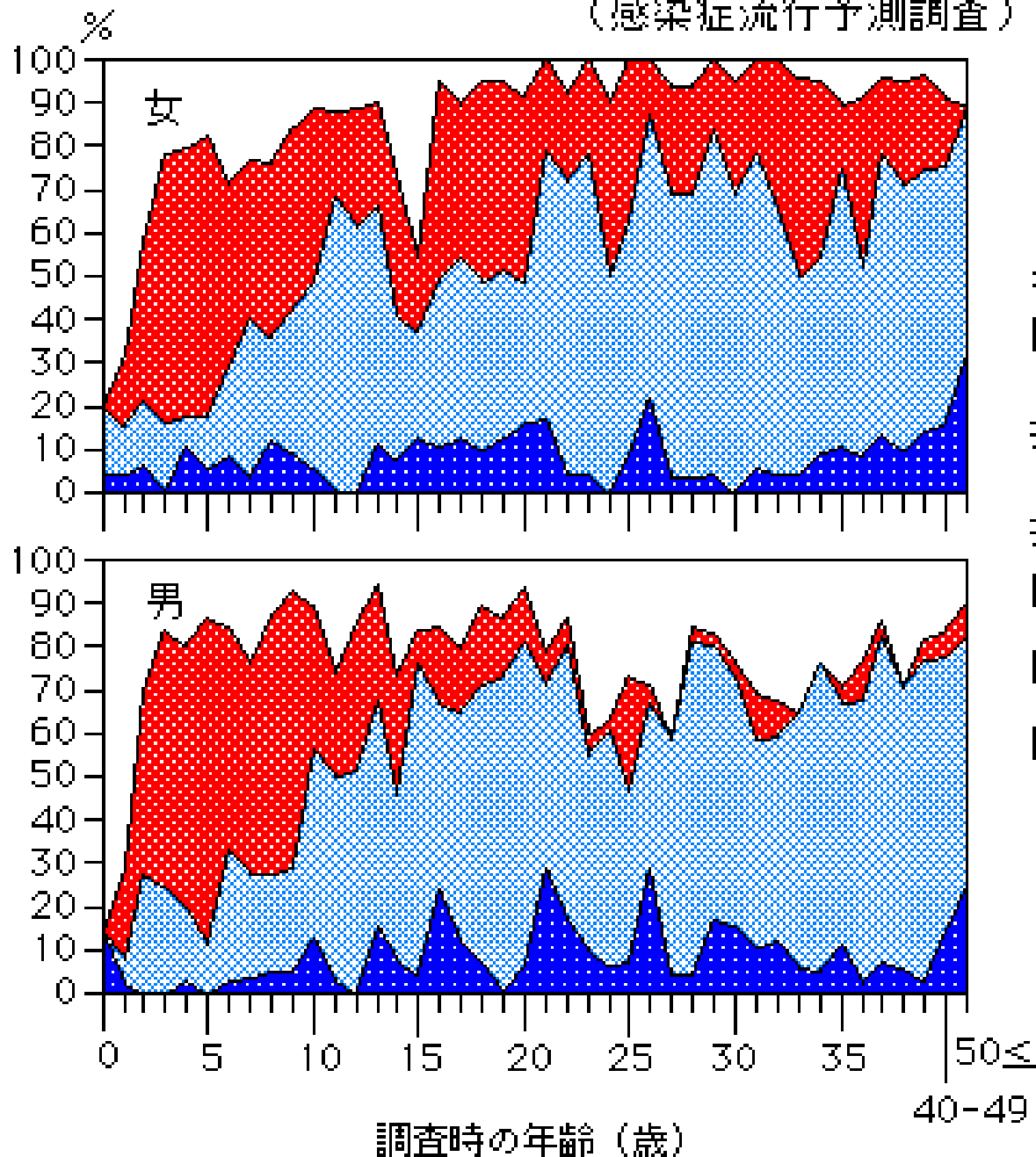
抗体
未保有者

女
15歳
学童

男
20歳以上^(≥8)

に多い

H-1抗体陽性者の割合



厚生労働省感染症分科会提言 - わが国の風疹対策 - 現在の定期風しんワクチン接種に関して

- 高い接種率を維持する
- 麻疹対策と同調した風疹対策を実施する
- 1歳6か月児健診、3歳児健診での予防接種歴のチェックと未接種者への勧奨
- 文部科学省を通じたキャンペーン
 - 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学
 - 入学（園）時の予防接種歴、罹患歴チェック

経過措置緊急キャンペーン

経過措置対象外の感受性者対策

風疹 流行時対策

予防接種勧奨

経過措置：2003年9月末まで

対象年齢：12歳～24歳

(昭和54年4月2日以降生まれ)

- 妊娠可能年齢の女性・妊婦に対する注意喚起
- 美容院、幼稚園・保育園保護者、婚姻届出時、成人式、おやこクラブ、小～高校生、全戸回覧
- マスメディア、広報紙による注意喚起

接種を受けやすい機会の提供：

9月をワクチン月間とし土日にも接種

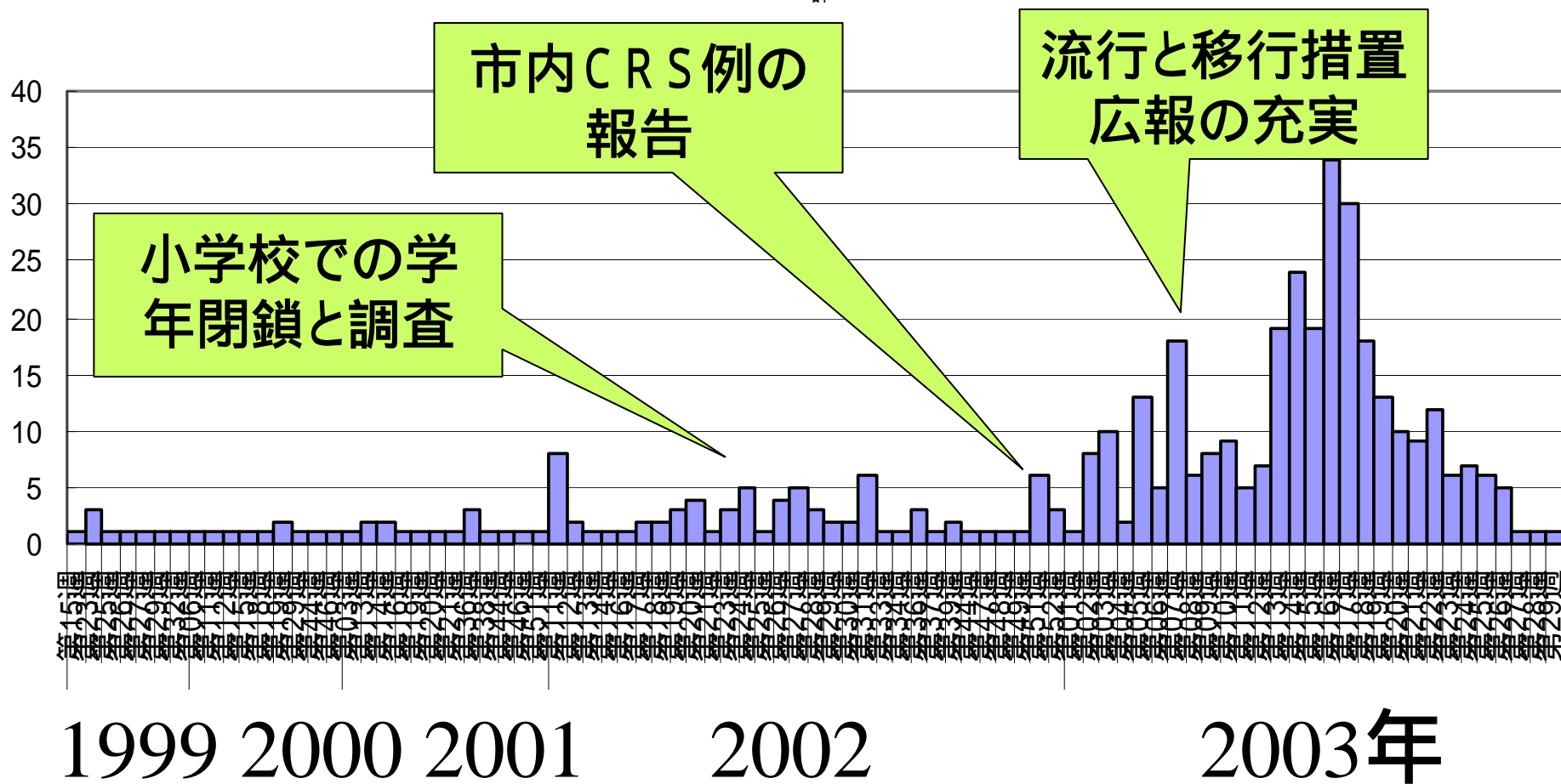
感染拡大阻止活動

- 学校、職場、医療機関など ?

風疹 予防接種の勧奨 岡山市

時期	接種勧奨・啓発	発生の状況
平成14年度		
5月27日		市内T小学校で風疹学年閉鎖報告あり
6月頃	・保育園, 幼稚園児の保護者	
12月		先天性風疹症候群発生届
1月	・成人式式典会場にて経過措置チラシ配布 ・おやこクラブ総会情報提供	
	・岡山県内全高校生に経過措置のチラシ配布	
2月	・広報紙に経過措置予防接種の勧奨記事掲載	
3月	・啓発チラシを市内医療機関・小・中学生・婚姻届け出時等・美容院・公立、市立認可保育園	
平成15年度		
4月		市内で広域に流行
5月	・薬剤師会を通じて啓発チラシ配布 ・各地区愛育委員から啓発チラシを各戸回覧 ・シティーFMレディオモモ5 / 13啓発接種勧奨放送	
6月	・各大学(9校)専門学校(39校)小学校(86校)中学校(34校)高校(24校)衛生管理者をおいている企業(379)にチラシ配布	
7月	・7 / 10山陽新聞朝刊岡山市民版に経過措置接種勧奨記事掲載	
8月	・8月号広報紙へ経過措置勧奨記事掲載 ・ケーブルテレビの市政番組内で経過措置、早期接種を勧奨	

風疹 週当たり報告数と対策等 岡山市1999-2003年



予防接種率 岡山市

• 定期接種（国の推奨方法）

A		B	C	B / A	C / A
実施年次	1-2歳人口/2	実施総数	1-2歳での実施者	接種率	1-2歳での接種率
平成 8 年	6,476.0	6,073	3,779	94%	58%
平成 9 年	6,481.0	6,756	4,690	104%	72%
平成 10 年	6,631.5	6,215	4,698	94%	71%
平成 11 年	6,804.5	5,982	4,785	88%	70%
平成 12 年	6,796.0	6,096	5,056	90%	74%
平成 13 年	6,721.0	6,341	5,292	94%	79%
平成 14 年	6,629.5	6,522	5,528	98%	83%

• 移行措置対象者

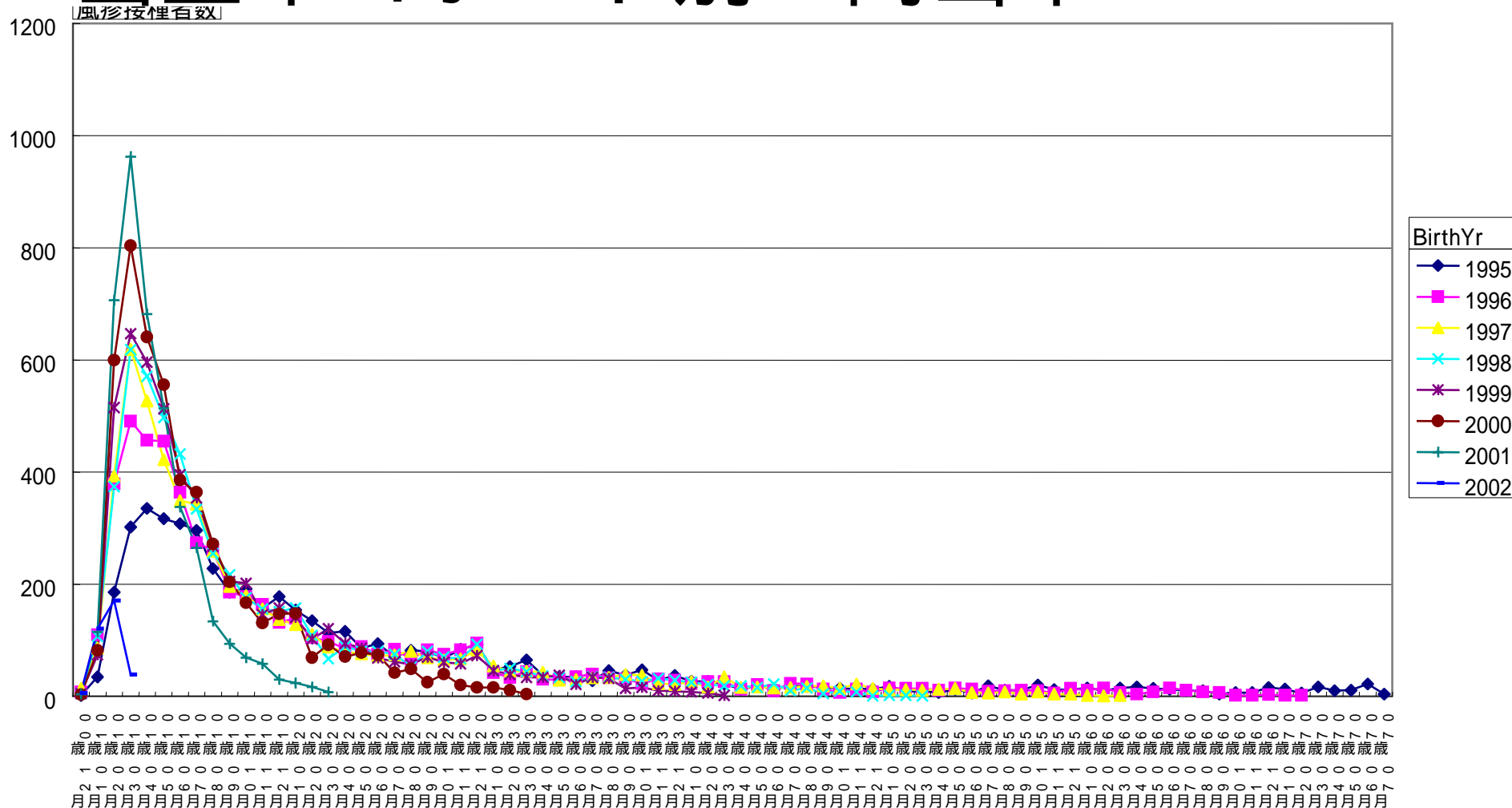
国92%、県89%

$$13\text{歳児人口} + \left(1 - \frac{\text{前年度接種者数}}{\text{前年度対象者数}}\right) \times 13\text{歳児人口}$$

	接種者数	対象者数	接種率
平成12年度	1,766	11,914	14.82%
平成13年度	1,539	11,573	13.30%
平成14年度	1,511	11,633	12.99%

接種者における接種時期の推移

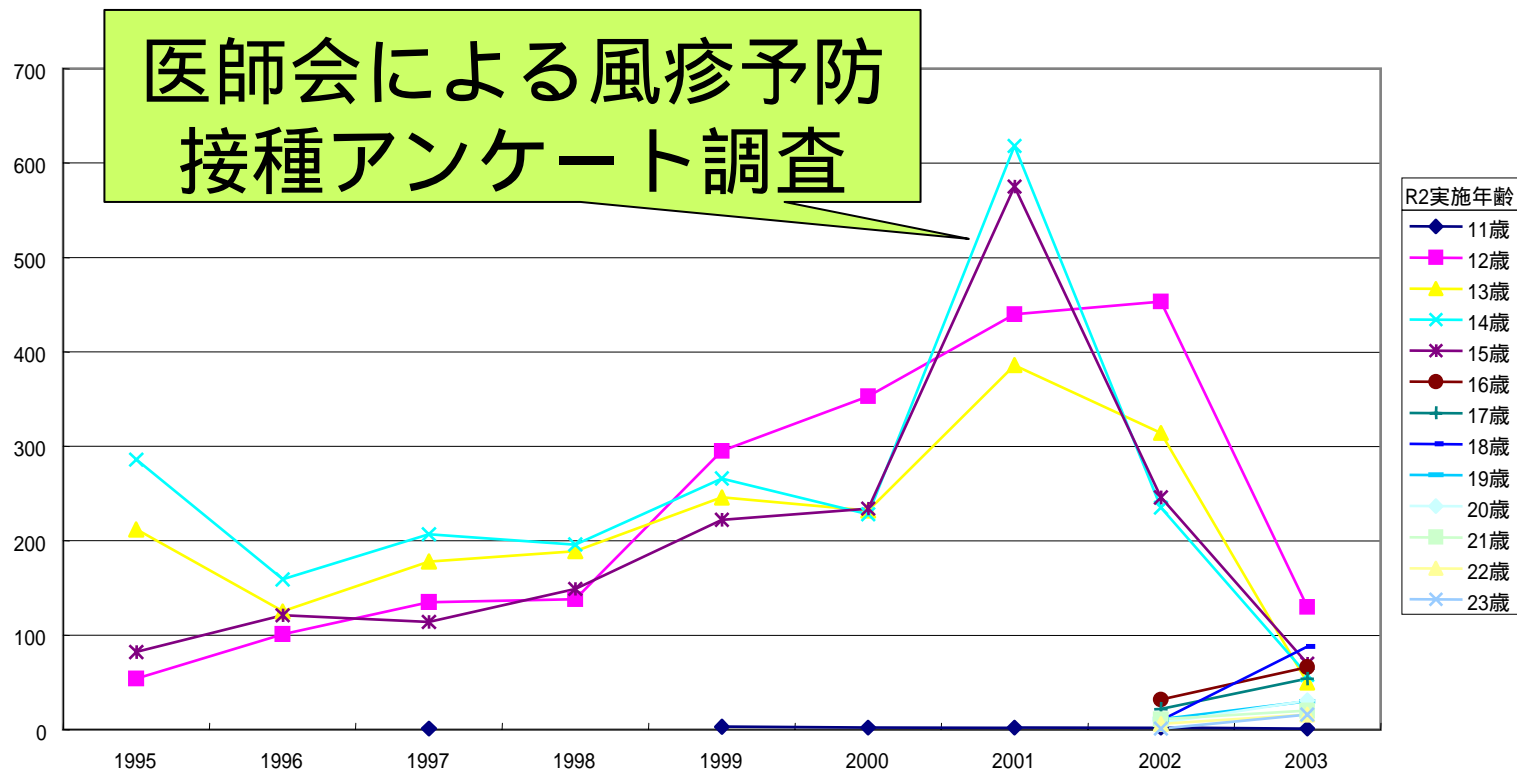
出生年コホート別 岡山市2003.3.



1歳3ヶ月をピークに接種時期は早期化している

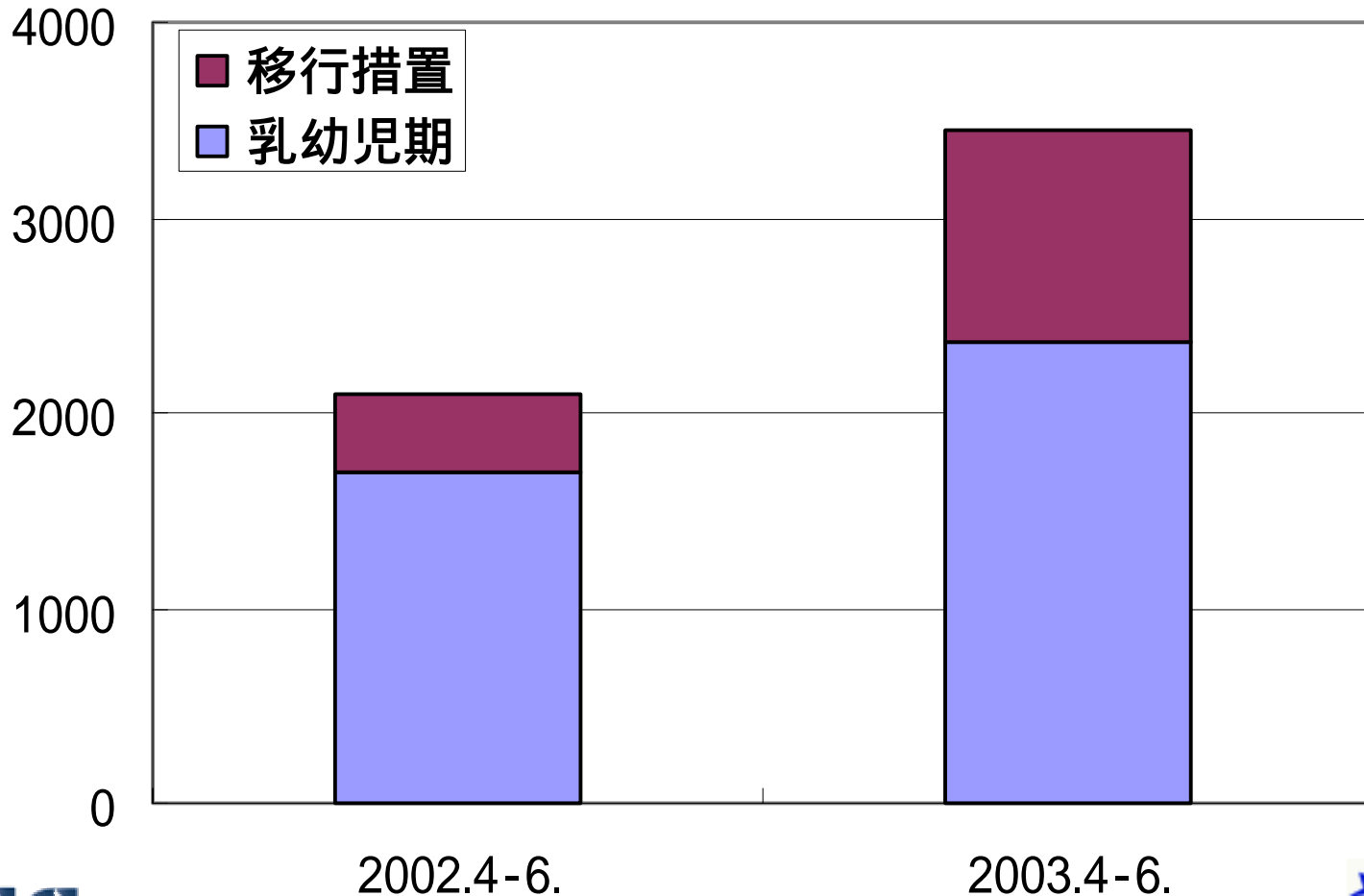
風疹 移行措置接種者数推移

岡山市 1995-2003



風疹予防接種数の増加

岡山市 2002,2003年第1四半期



風疹に関する情報交換会議

- 感染研、県、岡山・倉敷市の感染症担当者会議
- 7月11日岡山市にて開催
- 現状認識の統一、対策の点検
 - 流行時対策 枠組みの確認：
CRS（先天性風疹症候群）のインパクト、ワクチン対策の確認
 - 具体策の検討
ワクチン月間の推進、広報（チラシ全戸配布）
 - 流行影響評価の検討：CRS、感受性者の把握

今後の対策および検討課題

- ワクチン月間（協力機関で土日接種）の推進
- 流行のインパクトを計る
 - 成人：企業における集団発生の把握
 - CRS：新生児聴覚スクリーニング結果の確認
 - 感受性者の推定
流行予測調査事業の活用による抗体価測定
- 予防接種の推進
 - 流行情報の還元
 - 予防接種情報の還元
 - 医師会、教育委員会との協調
- 医療機関、学校等との認識の共有と対策の協調が必要

流行時対策を行ったメリット

- ワクチン接種者の増加
- 具体策を専門家・県とともに確認できた
流行時対策の経験が少なく、対策立案に不安があった
- 国、県との分担が検討できた
サーベイランスの活用に慣れておらず市の役割を検討できた
- 担当者のトレーニング機会となった

アウトブレイク対応の目的

- サーベイランスの充実

危機管理

- 対応の組織化
- 市民・他組織とのコミュニケーション
(窓口としてのマスコミ)

調査

- 原因究明
- 対応策立案
再発予防

- 担当者のトレーニング

Surveillance for action



謝辞

岡山市保健所保健課、岡山県健康対策課、
国立感染症研究所感染症情報センター の皆様